

アジアへの発信、宗像の宝～観光を主体とした宗像産業振興プロジェクト～(福岡県宗像市)

地域産業が衰退する中、北部九州屈指の水揚げを誇る漁業や苺・ミカンの特産品とする農業、日本書紀に載る宗像大社等個々の地域産業・資源を複合させた漁業・農業体験型ツアーなど新たな観光プランの提供により、観光から農水産業まで幅広い地域産業の活性化を図る。



漁業(地引網)体験型ツアー



歴史(中津宮)探訪ツアー

平成20年度の主な取組

- ① 漁港や宗像大社中津宮の在る肥前大島(離島)を舞台に、地引網や一本釣漁などの体験型観光モデルプランを作成しモニターツアーを実施・検証。
- ② 農業・漁業協同組合・商工会・観光協会・市による官民共同プロジェクトチームを組織し、ホームページを活用した観光・特産品の広報・宣伝・販売、嗜好調査を実施。

平成21年度以降の展開

周辺市町村との連携による協議会を組織し、アジアからの集客も見据えた広域観光プランの作成や広報・宣伝活動を展開するなど、北部九州における広域観光圏の形成を目指す。

世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生事業

—産・官・民・学が協働する保養滞在型エコツーリズムの実現—(福岡県田川市)

過疎化が進む旧産炭地において、産・官・民・学の協働により、炭坑の産業遺産の積極的活用と、地域独自の文化・自然との連携により、新たな観光や体験農業を展開することで、観光客・交流人口の拡大を図り、地域の自力再生を進める。



旧三井田川鉱業所
伊田竪坑櫓



炭坑節之碑

平成20年度の主な取組

- ① 地域資源掘り起こしのための、調査及び「市民アンケート」の実施
- ② 地域貢献の取組を組織化するため、学生の人材の把握
- ③ 観光客の増大に向け、第3回炭坑節まつり、世界遺産国際シンポジウムの実施

平成21年度以降の展開

エコツーリズムの事業化継続、田川近代産業遺産の世界遺産認定・炭坑節まつりの継続等を通じて、保養滞在型観光客・交流人口を拡大し、市民の誇りを再生するとともに、学生・留学生の定着・雇用増を図り、地方の元気・自力再生を目指す。

元気UPふくおか2008～学校まるごと緑化大作戦～

(福岡県福岡市(東区・中央区・南区))

小学校区を地域のまちづくり・ひとづくりの基本的ユニットととらえ、小学校を日常的な住民活動の拠点とするため、その端緒として誰でも参加可能な「まるごと緑花」を進め、都市のコミュニティ再生を図る。



学校緑化の様子

平成20年度の主な取組

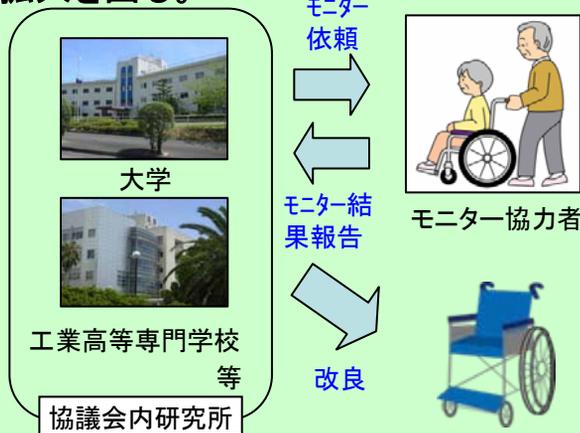
- ① 緑のまちづくり専門家を招き、事業の効果・評価方法の検討を行う。また、次年度へ向けての課題等を検討するため講演会、公開報告会等を実施する。
- ② モデルとなる小学校を選定し、花壇整備、校庭の芝生化、屋上緑化、壁面緑化を検討実践する。
- ③ 緑化カフェを実施し、市民による学校緑化の現地調査を行う。

平成21年度以降の展開

引き続き、校庭緑化の社会実験、緑化カフェ等を実施し、学校緑化取り組み校100校創出を目指す。また、小学校区を元気再生のコアとし、「学校まるごと緑化」による「笑顔のあるまち」、「美しく元気なまち」を目指す。

産学官連携による福祉用具ものづくりの販路拡大のためのビジネスモデル構築実証試験(福岡県大牟田市)

地域に所在する高等教育機関や地元企業を産学官連携の契機として捉え、高い高齢化率に直面する地域からのニーズをくみ上げた利用者本位の福祉用具・認知症予防玩具などの開発・製品化を進め、医療と工学の連携を通じた産業活性化・地域雇用の拡大を図る。



平成20年度の主な取組

- ① 聞き取り調査等を実施し、福祉用具のニーズ分析、マーケティング分析を行い商品のコンセプトづくりを行う。
- ② 試作品を製作し、利用者を中心としたモニタリングを実施し、その改良を行うとともにメーカーとのタイアップを目指し折衝を開始する。
- ③ 福祉用具メーカー、学識者、行政等による専門評価委員会を開催し、事業の評価、提言を行う。

平成21年度以降の展開

平成20年度で得たデータをもとに、より効果的な販売拡大に向けた「産学官連携によるものづくりの販路拡大ビジネスモデルの構築」を行い、福祉用具研究の拠点、製造・流通分野での地域企業の活性化、企業誘致などによる福祉用具系産業の集積を目指す。

「食」と「器」の地域づくり(佐賀県有田町)

代表産業である窯業・農業が低迷する中、有田焼の旧有田町と農業の旧西有田町の合併効果を活かし、食文化や窯元・商家・棚田の景観と折々の季節行事などの地域資源を複合した取組みを構築し、生産からマーケティングに基づいた製品の販売、もてなしによる交流観光へと活動を広げ、地域経済の維持向上と後継者の確保を図る。



賑わう有田陶器市



有田焼を器とした
地産地消型の料理



のどかな景色をなす棚田

平成20年度の主な取組

- ① 伝統的な建造物(町屋)をレストラン・喫茶店として活用し、特色ある料理と好感度の高い食器を用いたもてなしを展開。
- ② 新たな需要を喚起するため、高品質な農畜産物を使った加工食品の開発や、食の現況にマッチし、特化したユーザーを想定した有田焼デザインの調査を実施。

平成21年度以降の展開

農産物の品質底上げや加工食品の流通実験、観光客の反応や各ユーザーの嗜好を分析した有田焼の新デザインの開発、食と器の組合せの地域外(首都圏)への提案等により、観光客の増加とリピーターの確保、販売増加による産地と商店街の活性化、担い手の確保を目指す。

唐津の海辺の魅力を活かした観光振興事業(佐賀県唐津市)

地元の数多くの分野の団体が結集して大学との連携を図ることで、実務・知識・活力を合わせた強力な実施体制を構築し、海辺の魅力を内外にアピールするために観光モデルコースを設けたり、イベントや講習会を通じて市民へのPRと指導者の育成を図り、それらの浸透による交流人口ひいては定住人口の増加を目指す。



虹ノ松原と唐津湾



ヨット体験教室



西の浜から唐津城を望む

平成20年度の主な取組

- ① 海辺の魅力を再認識してもらうため、唐津湾沿いの歴史・文化・資源を活かした観光モデルコースを作成し、観光体験を実施。
- ② ハーバーフェスティバルの開催やマリンスポーツ体験・親子教室等により、魅力体験を実施しつつ、ボランティア・指導者を育成。

平成21年度以降の展開

観光商品開発、PR活動、ハーバーフェスティバル、コミュニティFM等を継続しつつ、「海の博物館(仮称)」の実現化検証に着手し、海辺に開かれた唐津の魅力づくりを一体的に進めることで「日本一豊かな海辺都市」を目指し、面的な観光振興・定住促進による地域活性化を図る。

情報通信サービスを活用した離島地域の活性化プロジェクト

(長崎県壱岐市・対馬市)

離島のコミュニティ維持・産業誘致のため、整備が遅れている高速情報通信サービスを提供することにより、既存企業の事業拡大・新規事業の展開等により地域の産業再生を図るとともに、離島の住民生活を支える医療分野等への利用拡大を図ることにより、条件不利地域の活性化のモデルプランを目指す。



高速伝送装置



海底ケーブル

(イメージ)



遠隔医療実験

平成20年度の主な取組

- ① 期間限定の無料アクセスポイントを設置し、観光客の誘客へのIT活用を検討。
- ② 高速情報通信サービスを用いた事業拡大のために、医療分野での活用方法の検討などの実証実験を実施。

平成21年度以降の展開

高速情報通信サービスの本格導入に向けた民間通信事業者への初期投資軽減の支援策等を検討するとともに、企業の誘致等による需要の確保をすることにより、1つの核となるツールの整備によりその効果を幅広く活用する仕組みのモデルを目指す。

「アメリカ in SASEBO」コミュニティ環境構築による地域活性化（長崎県佐世保市）

来訪者の伸び悩む商店街において、米軍基地と共存する地域特性に着目し、きめ細かい対応が可能な英語サービス案内体制の構築や、商店街自らの英語コミュニケーション能力の向上により、米・邦来街者が共に楽しめる新しい賑わいの街（アメリカを感じられる街）づくりを進め、商店街の個性化による再生を図る。



「アメリカ in SASEBO」
イメージ

商店街の現況



平成20年度の主な取組

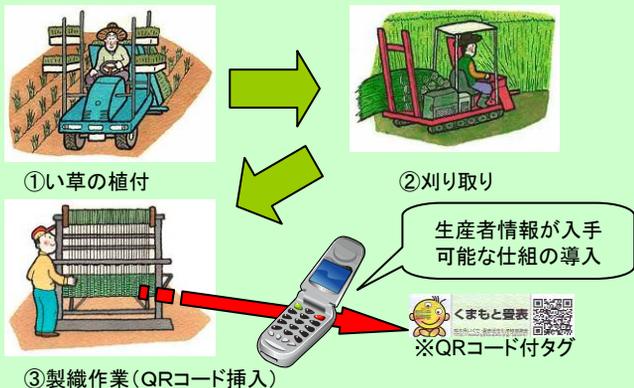
- ① 商店街の空き店舗を活用し、米国人にも気軽に利用できるサービス案内拠点「アメリカ in SASEBO」の開設やWebを活用した情報発信を試行・検証。
- ② 商品説明や販売に特化した、商店街従業員向け英会話訓練の実施・実践。

平成21年度以降の展開

「アメリカ in SASEBO」やWeb内容の充実を図り常設を実現するとともに、将来を担う地元児童を含めた英会話講座の開設、商店街の看板や商品名等の英語表記キャンペーンの実施などを行い、米国人の街中誘導を図り、アメリカを感じられる街づくりを目指す。

日本のたたみ復活プロジェクト(熊本県八代市)

海外産畳表の流通により低迷する八代産の畳表に、QRコードを付すことにより生産者の顔が見え、消費者が安全・安心で高い品質を感じられる新たな仕組みを導入するとともに、マーケティングや品質管理を徹底し、国際競争の中で差別化・ブランド化を実現する地域伝統産業の復活モデルを構築。



平成20年度の主な取組

- ① 地域ブランド・プレミアム戦略として、安全・安心な畳表を消費者に提供するため栽培・加工講習会を実施する。
- ② 畳表消費者の様々なニーズをアンケート調査により検証し、ブランドの価値を高める。
- ③ QRコード付きタグ挿入位置自動停止装置を整備し、試験的に30万畳を流通させる。それにあわせて本事業により実証結果の調査を行う。

平成21年度以降の展開

本事業の実証結果を生かし、県内全域にとりくみを拡大し、外国産畳表に対して熊本県産畳表の競争力の強化を図る。また、その他の基幹作物であるトマト、しょうが、お茶等についても畳表で確立されたモデルを構築、導入することにより、力強い産業やコミュニティビジネスの創造による高齢者の雇用機会や女性起業の創出などの相乗効果・波及効果を図り、地域の再生を目指す。

リスクコミュニケーションとコミュニティバス活用による 限界集落の機能再生プロジェクト(熊本県山都町)

山間の過疎において、山都町住民及び職員と熊本大学の防災まちづくりグループのスタッフが連携し、地域防災教育及び避難情報伝達システムの開発を行い、コミュニティバスを利用した活動を通じて集落間連携での防災体制を確立し、限界集落を抱える地域の活性化と再生を目指す。



平成20年度の主な取組

- ① 災害時において、雨量など警戒値を超え段階で、警戒情報対象地区住民に伝達する避難情報発令システムの構築や、GPS機能付き携帯電話とGISを組み合わせた災害弱者の安否確認システムの構築等を行う。
- ② 町営コミュニティバスを集落間の交流や防災教育及び早期避難時において活用し、コミュニティバスの認知度の増加と利用活性化を図る。

平成21年度以降の展開

避難情報発令システム及び安否確認システムを活用とした災害時の避難に関する社会実験及び避難行動データの取得・分析を行い、避難の社会実験結果の報告会、防災セミナーなどによる地域の防災リーダーの育成を行う。また、防災リーダーが中心となった地域防災活動とコミュニティバスの活性化を目指す。

多様なNPOの連携による新しいスタイルの滞在プログラムの創出事業 (大分県別府市)

短期観光が増加する地域にあって、都市部シニア層を対象とした農村体験など体験型の中長期滞在観光プランやバリアフリー観光プランなど来訪者の裾野を広げる新たな観光プランの提供により観光産業の活性化や雇用の創出を図る。



<温泉地獄>



<高崎山>

旧来の
スポット
的観光
に加え、
新たな
観光
プランを
提供



稲刈り等体験型観光



車椅子でも廻れる観光

平成20年度の主な取組

- ① 稲刈りなど農村体験などを含む滞在型・泊食分離型の滞在プログラムモデルを作成しモニターツアーを実施・検証。
- ② 車椅子でも安全・安心に観光可能な施設や経路等を調査し、バリアフリー観光モデルプランを作成し実施・検証。



平成21年度以降の展開

連携する農家の拡大や車椅子利用者をサポートする人材の育成を図り、体験型の中長期滞在観光プラン及びバリアフリー観光プランの商品化を実現するとともに、特徴ある農産品や加工品の開発・商品化を行い、さらなる魅力向上を図り、日本に冠たる観光地としての復権を目指す。

由布院サステナブルツーリズムプロジェクト(大分県由布市)

急速な観光地化が進む地域にあって、乱立する看板の排除など景観に配慮した街並みの保存や交通混雑の解消などを図り、本来の地域の特徴を取り戻しつつ観光産業の持続ある発展を図る。



乱立する看板、人・車による交通混雑



パークアンドライド

特徴回復



由布岳を頂き
風光明媚な温泉地

平成20年度の主な取組

- ① 景観シミュレーションの実施・評価を行うとともに、看板の除去度合いを競う「引き算コンテスト」を実施。
- ② 周辺駐車場等の協力のもと、温泉地の雰囲気にもマッチするミニ周遊バスを試験的に運行させ、パークアンドライドの促進を図る。

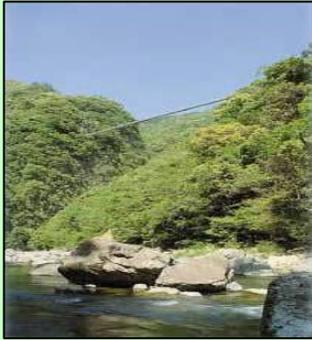


平成21年度以降の展開

景観に対する啓蒙活動等とおし、民地・公共用地一体となった景観形成の実現を図るとともに、パークアンドライドの定着を図る。また、地元農家と連携した地産地消レストランをオープンさせるなど農村の温泉地らしさを維持したさらなる魅力向上を目指す。

「スローフード運動による食農と工芸と環境融合型の町づくり推進」事業 (宮崎県綾町)

自然環境が豊富に残る地域にあって、先駆的に導入した有機農法による農作物を利用したスローフード体験やファクトリーツーリズム(手作り伝統工芸品の製作体験)など、スローライフを体感できる観光プランの提供により、地域独自の新たな産業・雇用の展開を図る。



国定公園として指定される
照葉樹林

地域独自の
特徴を活かした
産業等の
連携



有機農法による
梅・ラッキョウの料理



ガラス細工工房

平成20年度の主な取組

- ① 公共(町営)宿泊施設を活用し、有機食材を用いた料理・加工品の試作・人材育成を実施。
- ② 町内43箇所の工芸作家のアトリエや展示会場の見学と実際の工芸制作体験を組み合わせ合わせた観光モデルプランを作成しモデルツアーを実施・検証。

平成21年度以降の展開

体験型の観光プランの商品化、古民家を活用したロングステイプランの作成・商品化を実現するとともに、スローライフに共感する定住者支援のための窓口・サポーターの設置・育成を行い、“綾町=日本一の照葉樹林とスローフード&スローライフの町”のイメージ定着を目指す。

シニアタウン構想 リフレッシュライフin青島 プロジェクト(宮崎県宮崎市)

旧来型観光産業の衰退、地域の高齢化の進展にあって、文化・レクリエーション活動など、高齢者の“生きがいづくり”の企画やコミュニティを確保する共同生活などの実践をとおり、県内外からの高齢者の定住・二地域居住を受け入れ、シニアが主役たるシニアタウンの形成を図る。



温暖な気候
を有する青
島地域



高齢者が主役のファッションショー



高齢者向け料理教室

平成20年度の主な取組

- ① レクリエーション・工芸・貸農園での農作業など新たな体験活動を企画・運営。
- ② 高齢者仲間数人での共同生活の実践・検証、生活カウンセリング・ヘルスケアの実施。
- ③ 移住・定住に必要な住宅情報や居住・サポート環境の情報発信。

平成21年度以降の展開

県外からの移住希望者への広報活動の充実、移住体験ツアーの実施、さらには、移住可能な空家等の物件情報の充実を図り、高齢者が安全・安心に生き生きとして生活できる町“シニアタウン”の実現を目指す。

長寿の国 かがしま発「平成版 IT湯治」

～健康な私を見つけ、もっと元気な私になる旅～（鹿児島県指宿市）

地元の食材を生かした低カロリー食、ウォーキング、砂むし入浴等を組み合わせた滞在プログラムを提供するとともに、身体状況計測機器・ICTを活用して滞在者の健康状態を計測し即時的に食事・運動のアドバイスなどを行う「平成版 IT湯治」の商品化を進め、健康保養滞在型の観光地づくりを進める。



砂むし入浴



身体データ計測、アドバイス



平成20年度の主な取組

- ① ICTを活用して保養滞在者の身体情報の蓄積、情報のフィードバック・アドバイスを双方向に行う「平成版IT湯治」システムを構築。
- ② 指宿市において「平成版IT湯治」システムを用いた実証実験を行い、生体情報を収集し、その特性・効果を評価。

平成21年度以降の展開

システムの信頼性を高めるとともに、健康発見型地域宿泊商品としての販売を進める。また、指宿市の「菜の花マラソン」や砂むし等と併せた健康保養滞在型の観光地づくりを進める。さらに、「平成版IT湯治」を県内、九州、全国へと拡げ、健康づくりのネットワークを国内に作り上げる。

「薩摩天まちまつり」

～鹿児島の資源発掘・発見～ 調査（鹿児島県鹿児島市）

九州新幹線全線開通を控え、激化する都市間競争に対応し、鹿児島の資源を「発掘・発見」することにより、県都における地産地消の促進を先導し、鹿児島ならではの生活文化や人に優しい環境の創造、集客力の向上を図り、中心市街地活性化をリードする。



いづろ新アーケード



空き店舗

平成20年度の主な取組

- ① 鹿児島県特産物を新たに発掘・発見し、商店街の空き店舗を活用して宣伝・販売する地産地消まつりの実施
- ② 市営電車料金を一時的にワンコイン化し、公共交通機関の活用を促進する社会実験を実施
- ③ 文化の発掘・発見の一環として、島津斉彬公没後150年奉夜神楽を実施

平成21年度以降の展開

「地産地消まつり」の本格的な事業化及び「薩摩文化夜神楽」の継続実施に取り組むとともに、バス会社や市交通局等関係者と調整し、より中心市街地に来街しやすい交通環境の整備法策を検討する。

海と大地の資源を活用した産業創生モデル事業(鹿児島県南さつま市)

南さつま市南西部の変化に富んだリアス式海岸線等の雄大な景観を眺望する施設や関連する周辺施設の連携を図り、特色ある観光資源を有機的に結びつる旅行商品やバスの実験的運行により、各施設間の回遊性を高めるとともに全国に地域の魅力を発信し、過疎化の進行する本地域の活性化を図る。

坊津地区



笠沙地区

平成20年度の主な取組

- ① 大手旅行代理店ツアー担当者を対象としたモニターツアーを実施し、「南さつま海道八景」をめぐるツアーの企画提案書を募集
- ② 市内の観光地を周遊する定期観光バスを実験的に運行し、本市観光地の認知度・魅力度等を検証

平成21年度以降の展開

「海道八景」を撮り、描き、詠むための場所として、駐車場整備や案内・情報板を設置するスポット&パーキング「とるば226」を整備するとともに、国道226号線沿線の回遊性向上に関する取組を併せて実施する。

ぬちぐすい うふ くにがみ

「命薬の里」親やんばる国頭の資源活用に係る方策検討調査(沖縄県国頭村)

自然資源を活用したエコツーリズムや環境学習、体験学習(グリーンツーリズム、ブルーツーリズム)などを主なテーマとして、一次産業、二次産業、三次産業などが連携した持続可能な環境保全型産業構造構築による「命薬の里」づくりを目指す。



森林宿泊学習の様子



平成20年度の主な取組

- ①環境保全型観光プログラム開発のためのモニターツアー実施や利活用実証実験
- ②森林セラピー普及シンポジウムやモニターツアーの実施
- ③薬草等特産品開発の基礎調査及び実証実験

平成21年度以降の展開

1次産業を巻き込んだ体験学習などを主とした環境保全型観光を強力に推進するとともに自然資源を活かした特産品開発を継続して行う。また、環境保全型産業構造への転換を進め、林業の保全による起業等持続的な地域振興による「命薬の里」としての地域再生を目指す。

環境に配慮した持続可能な観光の推進およびコミュニティ・ビジネス構築事業 (沖縄県伊是名村)

島の環境や景観、自給を中心とした生活スタイル、コミュニティの文化を守り、訪れた観光者が文化的原点を体感できる島づくりを進め、観光者と共に島を守り伝える交流型の運動を推進するとともに、各取組を有機的に連携させ、開発に頼らない自律型観光振興を目指す。



再生された古民家



しまあかりイベント

平成20年度の主な取組

- ①再生古民家二棟の運用及び提供実験
- ②マイバッグデザインコンテストの開催等全島マイバッグの推進
- ③「しまあかり」の開催、島民の自主企画運による島外への情報発信



平成21年度以降の展開

古民家再生事業の拡大、古民家レストラン設立の具体的推進、リサイクルショップの設置、運用等各事業を有機的に結合しながら、住民主体による「環境観光」を推進し、自立型コミュニティ・ビジネスの形成を図る。

うるま市合併再生プロジェクト(沖縄県うるま市)

合併したメリットを最大限に活かすべく、うるま市特有の観光資源を活用した旅行商品化、外国人観光客受け入れ体制の整備、継続的な地域力向上のための人材育成、新たな健康長寿ビジネスモデルの構築を、行政・事業者・地域住民等が一体となって持続的・複合的に展開する。



闘牛



エイサー

平成20年度の主な取組

- ① うるま市を代表する三大文化イベント「闘牛・エイサー・阿麻和利」観光商品化等。
- ② 将来の市民リーダー養成のために、市民サポーターズクラブを創設し、三大文化イベント等のサポートを行う。
- ③ 健康プログラムの構築及びぬちマース(塩)・もずく等を利用した健康食品の開発。



平成21年度意向の展開

○観光イベント～闘牛・エイサー・阿麻和利～の旅行商品化、全国発売 ○ブランド確立・販路拡大マーケティング事業 ○長期滞在型ウェルネスリゾートのプログラム開発、商品化 ○自主運営による観光協会の設立 ○観光拠点(観光案内センター等)の整備

摂食嚥下障害を持つ要介護者対応の観光・福祉連携事業(沖縄県久米島町)

これまで食物アレルギー対応の受入態勢構築などの実績がある久米島において、飲食物の飲み込みが困難で通常の旅行の難しい摂食嚥下障害者への食事・医療等のケアのみならず、同行する介護家族も楽しめる観光メニューを提供し、これまで旅行ができなかった人々が安心して訪れられる新たな観光・福祉事業を地域産業として定着させる。



豊かな自然を背景に旅行弱者と介護者もくつろげる環境を提供



きめ細かい食事対応(食物アレルギー対応食の提供)

平成20年度の主な取組

- ①摂食嚥下障害対応の介護食の開発。
- ②要介護者及び介護家族がくつろげるレクリエーションの開発。
- ③地域の高齢者福祉サービスの質・量の向上。
- ④旅行来島の高齢者と地域の高齢者との交流促進。

平成21年度以降の展開

旅行弱者対応の「久米島ならではの」旅行商品“群”を拡充するとともに、これを地域サービスや地域の競争力の向上に繋げ、『観光振興(経済効果)』・『QOL(生活の質)の高い地域社会』・『出産育児年齢層の定住促進』の連動を加速させる。

‘国境のまち’再生／与那国島の国境交流推進事業(沖縄県与那国町)

日本最西端の国境離島という条件を‘地の利’とし、姉妹都市である台湾花蓮市との国境交流を軸に、国内外を結ぶ新たな観光・特産品の振興、新たな生活圏の創出を支える交通手段の確保等を促進し、戦前から終戦直後まで‘アジアの玄関’として栄えた国境離島・与那国の元気と活力を再生する。



与那国島から見える台湾



与那国町・花蓮市
「国際交流増大戦略会議」の様子

平成20年度の主な取組

- ①「TAITRAフードフェスティバル」等出展のフォローおよび新規展開等を軸とする与那国特産品の国際的振興
- ②「チャーター便就航事業」等による花蓮⇄与那国間の直接往来の促進(海路+空路)

平成21年度意向の展開

- 与那国－花蓮間の直接航行の本格化(定期運航化)
- 国境の島YONAGUNIを中継地とする新たな観光・交易の促進
- 国境地域の発展を担う次世代の人材育成と地域間協力の推進